

(証券コード6655)
2022年6月1日

株 主 各 位

愛知県春日井市味美町二丁目156番地

東洋電機株式会社

代表取締役 松尾昇光

第83期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社第83期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、書面による議決権の事前行使をご検討いただき、株主総会当日のご来場は極力お控えいただきますようお願い申し上げます。株主様におかれましては、お手数ながら後記株主総会参考書類をご検討くださいますようお願い申し上げます。同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2022年6月22日（水曜日）午後5時15分までに到着するようご送付いただきたくお願い申し上げます。

敬 具

記

- | | |
|--------|--|
| 1. 日 時 | 2022年6月23日（木曜日）午前10時 |
| 2. 場 所 | 愛知県春日井市味美町二丁目156番地 当社本社 2階会議室 (末尾の株主総会会場ご案内図をご参照ください。) |

3. 目的事項

- 報告事項**
1. 第83期（2021年4月1日から2022年3月31日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第83期（2021年4月1日から2022年3月31日まで）計算書類の内容報告の件

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
- 第2号議案 定款一部変更の件
- 第3号議案 取締役（監査等委員であるものを除く。）3名選任の件
- 第4号議案 補欠の監査等委員1名選任の件
- 第5号議案 取締役に対する業績連動賞与の報酬枠改定の件

以上

- ◎ 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
- ◎ 株主総会参考書類ならびに事業報告、計算書類および連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.toyo-elec.co.jp/>）に当該修正事項と修正後の内容を掲載させていただきます。
- ◎ 当日は、ノーネクタイ（クールビズ）スタイルにて対応させていただきますので、株主の皆様におかれましても軽装にてご出席くださいますようお願い申し上げます。
- ◎ 株主総会にご出席の株主の皆様へのお土産はご用意しておりません。何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症に伴う当社の対応について

- 本総会にご来場される株主様は、株主総会開催日現在の国内の感染状況やご自身の体調をお確かめのうえ、マスク着用などの感染予防にご配慮いただき、ご来場賜りますようお願い申し上げます。
- 当社では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、総会会場におきまして下記の対策をいたします。
 - (1) 検温にご協力ください。検温の結果37.5℃以上の方は入場をお断りさせていただきます。
 - (2) 役員一同はマスクを着用させていただきます。
 - (3) 会場入り口付近など複数箇所にアルコール消毒液を設置いたします。会場への入場の際には、アルコール消毒液の噴霧にご協力ください。
 - (4) 体調が悪化し、またご気分が優れなくなった等の場合は、受付スタッフまでお申し出ください。
 - (5) 株主総会会場において、間隔を空けた座席配置とするため、例年よりも会場の座席数が減少する見込みです。満席となった場合にはご入場をお断りする場合がございます。何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。
- 当日は、勝川駅から当社春日井工場間の送迎バスの運行を取りやめとさせていただきます。株主の皆様にはご不便をおかけしますが、あらかじめご了承のほど、お願い申し上げます。
- 株主の皆様当社をより深くご理解いただくため、例年総会終了後に開催しておりました「製品説明会」ならびに「工場見学会」につきましては、新型コロナウイルス感染予防の観点から今年度は中止させていただきますので、あらかじめご了承のほど、お願い申し上げます。

(添付書類)

事業報告

(2021年4月1日から
2022年3月31日まで)

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過およびその成果

当連結会計年度におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症による行動規制が徐々に緩和される中、世界的なサプライチェーンの混乱などにより、電子部品等の調達難や材料価格の高騰もあり、2022年3月期全般を通じて経済活動に対して大きな影響を受けることとなりました。また、為替は円安傾向にあり、輸入品仕入価格上昇を誘発するなど、依然として先行きは不透明な状況が続いています。およそ2年目となるコロナ禍での当社グループの企業活動は、展示会での出展や参加は未だ制限を受けながらも、対面での営業セールスや商談等も徐々に再開してまいりましたが、コロナ禍以前の状態には至っておりません。

当連結会計年度の経営成績につきましては、前連結会計年度に比べ国内制御装置関連事業の2部門（機器部門、変圧器部門）および海外制御装置関連事業、樹脂関連事業は増収となりましたが、国内制御装置関連事業のエンジニアリング部門でそれをやや上回る減収となりました。利益面では経費の抑制に努め、減収下でも利益を確保することができました。その結果、売上高は7,703百万円(前連結会計年度比0.8%減)、営業利益は101百万円(前連結会計年度比8.8%増)、経常利益は184百万円(前連結会計年度比11.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は82百万円(前連結会計年度比49.2%減)となりました。なお、当連結会計年度の為替レートは、中国人民元が18.09円（前連結会計年度は15.82円）、タイバーツが3.46円（前連結会計年度は3.44円）と、前連結会計年度に比べ中国人民元に対し2.27円安、タイバーツに対し0.02円安で推移いたしました。

各セグメントの業績は、以下のとおりであります。

<国内制御装置関連事業（当社、東洋電機ファシリティーサービス株式会社、東洋板金製造株式会社）>

国内制御装置関連事業につきましては、エンジニアリング部門（前連結会計年度比525百万円減）、機器部門（前連結会計年度比147百万円増）、変圧器部門（前連結会計年度比249百万円増）と2部門増収、1部門減収となり、売上高は6,330百万円（前連結会計年度比127百万円減、2.0%減）となりました。利益面では、原材料や部品が高騰するなかでも、販売価格への転嫁を進めたり、廉価な代替材料を採用したりすることにより、原価率抑制に努めました。また販売費及び一般管理費についても、消耗品の購入抑制、まとめ買い等小さなことから進めて予算管理を徹底してまいりました。

その結果、売上減少を補い、セグメント利益は181百万円（前連結会計年度比28百万円増、18.7%増）となりました。

なお、部門別内容は以下のとおりであります。

エンジニアリング部門の売上につきましては、

- ・搬送制御装置分野は、市場における物流関連の需要は堅調であるが、参入企業が増加し、価格競争が激しくなったことにより、減少しました。
- ・印刷制御装置分野は、新聞関連の設備投資が少なかったことにより、減少しました。
- ・監視制御装置分野は、官庁向け大口案件の受注により、増加しました。
- ・配電盤分野は、モータコントロールセンタ関連及び受配電関連は価格競争や部品調達の長納期化の影響により、減少となりました。

これらの結果、当部門の売上高は2,033百万円となりました。

機器部門の売上につきましては、

- ・空間光伝送装置分野は、研究開発案件の受注により、増加しました。

これらの結果、当部門の売上高は2,100百万円となりました。

変圧器部門の売上につきましては、

- ・DXの促進によるインフラ整備などで、データセンター向けや再生可能エネルギー関連の設備投資等もあり、増加しました。

これらの結果、当部門の売上高は2,196百万円となりました。

<海外制御装置関連事業（南京華洋電気有限公司、Thai Toyo Electric Co.,Ltd.）>

海外制御装置関連事業につきましては、売上高は若干増加しましたが、特に中国国内市場におけるコロナ政策の行動制限などに起因する経済不安により、南京華洋電気有限公司における盤事業・電子事業は厳しい状況となりました。Thai Toyo Electric Co.,Ltd.もコロナ禍の影響を受けロックダウンもあり、若干の減収となりました。両社合計の売上高は653百万円（前連結会計年度比49百万円増、8.2%増）となりましたが、部品や原材料の高騰を価格に転嫁するまでには至らず、セグメント損失は8百万円（前年同期はセグメント利益53百万円）となりました。

<樹脂関連事業（東洋樹脂株式会社）>

樹脂関連事業につきましては、自動車関連業界の回復により自動車部品用樹脂の需要増から増収となりました。売上高は718百万円（前連結会計年度比14百万円増、2.1%増）となりました。セグメント利益は、売上の増加と経費削減効果により27百万円（前連結会計年度比6百万円増、32.4%増）となりました。

(2) 設備投資の状況

当連結会計年度における当社グループの設備投資は、主に老朽化等に伴う生産設備の更新、事務機器の更新を実施いたしました。

その結果、当社グループにおける設備投資総額は88百万円となりました。

<国内制御装置関連事業>

国内制御装置関連事業における設備投資額は16百万円となり、主な設備投資内容は以下のとおりであります。

- ・建物改修工事 : 7百万円（当社春日井工場）
- ・出荷試験装置 : 6百万円（当社神屋工場）

<海外制御装置関連事業>

海外制御装置関連事業における設備投資額は4百万円となり、主に生産設備の更新を実施いたしました。

<樹脂関連事業>

樹脂関連事業における設備投資額は67百万円となり、主な設備投資内容は以下のとおりであります。

- ・押出機付帯設備 : 25百万円（子会社東洋樹脂株式会社）

(3) 資金調達の状況

当社グループにおける設備投資の所要資金につきましては、自己資金および借入金で賄っております。

(4) 対処すべき課題

当社グループを取り巻く経済環境は、新型コロナウイルス変異株の拡大による消費ならびに生産活動の停滞、部品や原材料不足による調達の長期化や価格高騰等により国内外で厳しい状態が続いており、今後も楽観視することはできない状況です。

しかし、複数回のワクチン接種も進んできており、アフターコロナ、ウィズコロナという状態の中で順応していくことが必要であると考えております。中期3年経営計画を当第83期からスタートし、1年目が終了いたしました。計画策定時には想定していないような部品調達難、原材料価格高騰により厳しい結果となったことは否めません。また今後ロシア・ウクライナ情勢など、経済環境はますます大きく変化すると想定されますが、原材料不足による納期対応に注力し売上確保に努めてまいります。次期第84期は中期3年経営計画の2年目にあたり、経営ビジョンをしっかりと持って、デジタル化の需要、DXを活用した省力化、合理化のニーズを取り込み積極的に提案し、受注活動に努めてまいります。企業の成長は、持続可能な社会創りと一体と考えており、当社グループでは脱炭素相談窓口を設置してSDGsを推進し、株主の皆様のご理解の下しっかりと成長して参りたいと思います。そのために、以下の施策に取り組んでまいります。

① SDGsの推進

持続可能な社会創りに全社をあげて参画意識を高め、環境に優しい製品作りを通じて社会貢献をしていくことに注力していきます。そのために、第82期に新設したSDGs推進室の下、社員の思いと社会の思い、更に経営者の思いを融合させて、全員参加で策定した中期3年経営計画を断行してまいります。

② 適正な金額の受注・売上の確保

広範囲かつ継続的な部品・原材料価格の高騰に伴う製造原価の上昇を反映した、適正な金額と根拠について誠意をもって顧客に説明し、受注・売上に繋げていくことを目指してまいります。そのためコア技術を磨き、一層の競争優位性を確保することに努めていきます。また、事業戦略に合致した製品の投入、海外・国内成長市場への新規・深耕開拓、在外子会社（南京華洋電気有限公司、Thai Toyo Electric Co.,Ltd.）との連携強化に努めてまいります。

③ 部品・原材料調達の安定化

コロナ禍を遠因とする世界的な部品不足、原材料価格の高騰、部材の長納期化は改善する方向にはなく、世界情勢の不安定化からむしろ悪化していく可能性が高いと予測しております。そのため、部品や原材料の在庫確保や、調達ルートが多様化、入手し易い部材への変更等の検討を実施し、製品作りのできるだけ支障が出ないように対応してまいります。

- ④ 生産性向上と働き方改革
各製品に適した生産技術のレベルアップにより全社規模での生産性向上を目指してまいります。また、時間あたりの生産性に対する意識向上を図り、働き方改革の推進と経営体質の強化に努めてまいります。
- ⑤ 技術と開発
コア技術製品の競争力強化や次世代に繋がる技術・製品開発の推進、戦略的な知的財産マネジメント、産学連携を中心としたオープンイノベーションの活用による新製品のリードタイム短縮により全社的な技術レベルの向上に努めてまいります。
- ⑥ 人財育成と環境改善
女性活躍・ダイバーシティの取り組み推進により働き甲斐ある職場環境を整備していきます。技術継承を効率的かつ確実に実施するため「技術の見える化」を形にしていくことに拘り、それを活用し、将来を担う人財育成に活用してまいります。内部統制システムやリスク管理体制を充実し、コーポレートガバナンスとコンプライアンスの徹底、法令遵守の労務管理と安全衛生活動の啓蒙を進めてまいります。
- ⑦ その他の取り組み
自然災害や感染症の拡大（パンデミック）等の緊急事態に対し、事業継続計画（BCP）に基づき、事業継続マネジメント（BCM）に引き続き取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(5) 財産および損益の状況の推移

①企業集団の財産および損益の状況

| 区 分 \ 期 別 | 第 80 期 (2018年4月1日から 2019年3月31日まで) | 第 81 期 (2019年4月1日から 2020年3月31日まで) | 第 82 期 (2020年4月1日から 2021年3月31日まで) | 第 83 期 (当連結会計年度 2021年4月1日から 2022年3月31日まで) |
|----------------------|---|---|---|--|
| 売 上 高 (千円) | 9,026,131 | 9,166,337 | 7,766,838 | 7,703,313 |
| 経 常 利 益 (千円) | 143,716 | 290,190 | 208,591 | 184,663 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 (千円) | 133,412 | 204,748 | 163,148 | 82,884 |
| 1株当たり当期純利益 (円) | 31.36 | 48.33 | 38.45 | 19.49 |
| 総 資 産 (千円) | 11,254,869 | 10,708,627 | 9,964,592 | 9,635,511 |
| 純 資 産 (千円) | 5,626,705 | 5,720,094 | 5,800,177 | 5,875,239 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 1,305.32 | 1,324.58 | 1,339.80 | 1,351.96 |

- (注) 1. 第80期は、変圧器部門ならびにエンジニアリング部門の売上が増加したことにより、売上高は前期に比べ増加したものの、材料価格の高騰などから原価率が悪化したことにより、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、1株当たり当期純利益は前期に比べ減少しました。
2. 第81期は、国内外の成長市場への新規深耕開拓、新規事業分野への積極的な展開などにより、売上高、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、1株当たり当期純利益は前期に比べて増加しました。
3. 第82期は、コロナ禍の影響により売上は大きく減少しました。また事業部門の統合に伴う合理化や経費削減に努めたものの、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、1株当たり当期純利益も前期に比べ減少しました。
4. 第83期（当連結会計年度）につきましては、前記「(1) 事業の経過およびその成果」に記載のとおりであります。また第83期（当連結会計年度）より、「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。当連結会計年度に与える影響額については、連結計算書類「連結注記表（会計方針の変更）」に記載のとおりであります。

②当社の財産および損益の状況

| 区 分 \ 期 別 | 第80期 (2018年4月1日から 2019年3月31日まで) | 第81期 (2019年4月1日から 2020年3月31日まで) | 第82期 (2020年4月1日から 2021年3月31日まで) | 第83期(当期) (2021年4月1日から 2022年3月31日まで) |
|----------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---|
| 売 上 高 (千円) | 7,609,822 | 7,896,546 | 6,507,574 | 5,886,744 |
| 経 常 利 益 (千円) | 59,977 | 176,534 | 184,861 | 224,485 |
| 当 期 純 利 益 (千円) | 81,245 | 127,646 | 168,550 | 148,661 |
| 1株当たり当期純利益 (円) | 19.10 | 30.13 | 39.73 | 34.96 |
| 総 資 産 (千円) | 9,931,087 | 9,372,181 | 8,637,510 | 8,300,508 |
| 純 資 産 (千円) | 4,874,218 | 4,876,237 | 4,975,157 | 5,033,907 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 1,153.14 | 1,151.06 | 1,171.51 | 1,183.21 |

- (注) 第83期（当事業年度）より、「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。当事業年度に与える影響額については、計算書類「個別注記表（会計方針の変更）」に記載のとおりであります。
- 参考値として、第82期（前事業年度）に「収益認識に関する会計基準」等が適用された場合、売上高は6,036,217千円となります。

(6) 重要な親会社および子会社の状況

①重要な親会社の状況

該当事項はありません。

②重要な子会社の状況

| 会 社 名 | 資 本 金 | 当社の出資比率 | 主 要 な 事 業 内 容 |
|-----------------------------|----------------|---------|----------------------|
| 東洋樹脂株式会社 | 196,000千円 | 100.0% | 再生・機能性樹脂ペレットの製造・販売 |
| 東洋電機ファシリティサービス株式会社 | 10,000千円 | 100.0% | 配電盤、変圧器のサービス・メンテナンス |
| 東洋板金製造株式会社 | 10,000千円 | 100.0% | 配電盤、変圧器の板金加工・組立・販売 |
| 南京華洋電気有限公司 | 30,980千 人民元 | 81.6% | 監視制御装置、配電盤、センサの製造・販売 |
| Thai Toyo Electric Co.,Ltd. | 102,000千 バツ | 99.9% | センサ等の製造・販売 |

(注) 特定完全子会社に該当する子会社はありません。

(7) 主要な事業内容

| 事 業 | 事 業 の 内 容 |
|------------|--------------------------------|
| 国内制御装置関連事業 | 監視制御装置、配電盤、変圧器、センサおよび表示器の製造・販売 |
| 海外制御装置関連事業 | 監視制御装置、配電盤およびセンサの製造・販売 |
| 樹脂関連事業 | 再生・機能性樹脂ペレットの製造・販売 |

(8) 主要な営業所および工場

【当社】

| | |
|------------|------------|
| 本社および春日井工場 | 愛知県春日井市味美町 |
| 神屋工場 | 愛知県春日井市神屋町 |
| 営業所 東京営業所 | 東京都千代田区 |
| 名古屋営業所 | 愛知県春日井市 |
| 大阪営業所 | 大阪市中央区 |

【東洋樹脂株式会社】

本社および工場 愛知県小牧市

【東洋電機ファシリティーズサービス株式会社】

本社 愛知県春日井市
味美工場 愛知県春日井市

【南京華洋電気有限公司】

本社および工場 中華人民共和国江蘇省南京市

【東洋板金製造株式会社】

本社 愛知県春日井市
神屋第2工場 愛知県春日井市

【Thai Toyo Electric Co.,Ltd.】

本社および工場 タイ王国チョンブリー県

(9) 従業員の状況

①企業集団の従業員の状況

| 事業 | 従業員数 | 前連結会計年度末比増減 |
|------------|------|-------------|
| 国内制御装置関連事業 | 229名 | 13名減 |
| 海外制御装置関連事業 | 147名 | 15名減 |
| 樹脂関連事業 | 37名 | 3名増 |
| 合計 | 413名 | 25名減 |

(注) 上記従業員数には、嘱託・パートタイマ (95名) を含んでおりません。

②当社の従業員の状況

| 従業員数 | 前期末比増減 | 平均年齢 | 平均勤続年数 |
|------|--------|-------|--------|
| 207名 | 15名減 | 42.8才 | 17.2年 |

(注) 上記従業員数には、嘱託・パートタイマ (81名) を含んでおりません。

(10) 主要な借入先および借入額

| 借入先 | 借入額 |
|--------------|-----------|
| 株式会社百五銀行 | 495,786千円 |
| 株式会社商工組合中央金庫 | 460,120千円 |
| 株式会社三井住友銀行 | 130,000千円 |
| 株式会社名古屋銀行 | 115,000千円 |

2. 会社の株式に関する事項

- (1) 発行可能株式総数 9,000,000株 (普通株式)
(2) 発行済株式の総数 4,694,475株 (自己株式440,014株を含む)
(3) 株主数 1,890名 (前期末比86名増)
(4) 大株主(上位10名)

| 株主名 | 持株数 | 持株比率 |
|--------------|-------|--------|
| 有限会社城西 | 430千株 | 10.11% |
| 東洋電機取引先持株会 | 342千株 | 8.05% |
| 株式会社商工組合中央金庫 | 232千株 | 5.46% |
| 東洋電機従業員持株会 | 220千株 | 5.17% |
| 株式会社百五銀行 | 195千株 | 4.58% |
| 松尾隆徳 | 173千株 | 4.07% |
| トヨテクノ株式会社 | 144千株 | 3.40% |
| 松尾昇光 | 138千株 | 3.25% |
| 第一生命保険株式会社 | 125千株 | 2.93% |
| 日本生命保険相互会社 | 125千株 | 2.93% |

- (注) 1. 当社は、自己株式を440,014株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は、自己株式(440,014株)を控除して計算しております。

(5) 当事業年度中に職務執行の対価として会社役員に交付した株式の状況

当事業年度中に交付した株式報酬の内容は次のとおりです。

当社譲渡制限付株式7,814株

・取締役、その他の役員に交付した株式の区分別合計

| 区分 | 株式数 | 交付対象者数 |
|------------------------------|--------|--------|
| 取締役（監査等委員である取締役および社外取締役を除く。） | 7,814株 | 3名 |
| 社外取締役（監査等委員である取締役を除く。） | — | — |
| 監査等委員である取締役 | — | — |

(6) その他株式に関する重要な事項

特記すべき事項はありません。

3. 会社の新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 会社役員に関する事項

(1) 取締役の氏名等

| 会社における地位 | 氏名 | 担当および重要な兼職の状況 |
|--------------|------|---|
| 代表取締役 社長執行役員 | 松尾昇光 | SDGs推進室長 東洋板金製造株式会社 代表取締役社長 南京華洋電気有限公司 董事 |
| 取締役 常務執行役員 | 井澤宏 | 事業部・海外関係会社担当 南京華洋電気有限公司 董事長 |
| 取締役 常務執行役員 | 加賀美孝 | 本社管理部門・国内関係会社担当 南京華洋電気有限公司 董事 |
| 取締役・監査等委員 | 加藤茂男 | 南京華洋電気有限公司 監事 |
| 取締役・監査等委員 | 葛谷昌浩 | 公認会計士 シンクレイヤ株式会社 社外取締役・ 監査等委員 |
| 取締役・監査等委員 | 井上誠 | 弁護士 |

- (注) 1. 監査等委員葛谷昌浩氏および井上誠氏は、社外取締役であります。
2. 監査等委員葛谷昌浩氏は公認会計士の資格を有しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
3. 監査等委員井上誠氏は弁護士資格を有しており、法務に関する相当程度の知見を有するものであります。
4. 監査等委員加藤茂男氏は当社内の事業部門で管理面全般の経験を有し、財務および会計に関する相当程度の知見を有するため、常勤の監査等委員に選定しております。
5. 当事業年度の取締役の異動は、次のとおりであります。
- (1)退任
森正一氏は、2021年6月23日開催の第82期定時株主総会終結の時をもって、任期満了により取締役を退任いたしました。
- (2)就任
2021年6月23日開催の第82期定時株主総会において、加賀美孝氏が取締役に新たに選任され、就任いたしました。
6. 監査等委員葛谷昌浩氏および井上誠氏は、名古屋証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。

(2) 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

(3) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することになる会社役員等としての業務の遂行に起因して、損害賠償請求がなされることによって会社役員等が被る経済的損害を当該保険契約により補填することとしております。ただし、背信行為や犯罪行為に起因する損害、意図的に違法行為を行った対象者自身の損害等は補償対象外とすることにより、役員等の職務の執行の適正性が損なわれないように措置を講じております。当該保険契約の被保険者は、当社および一部の子会社の取締役、監査役および執行役員等であります。なお、全ての被保険者について、その保険料を当社が全額負担しております。当該保険契約は毎年9月4日に更新しており、次回更新時には同内容での更新を予定しております。

(4) 取締役の報酬等

イ. 役員報酬等の内容の決定に関する方針等

当社は2021年2月10日開催の取締役会において、取締役（監査等委員である取締役を除く。以下、「取締役」という。）の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針を決議しております。また、取締役会は、当事業年度にかかる取締役の個人別の報酬等について、報酬等の内容が、取締役会で決議された決定方針に沿うものであると判断しております。

取締役の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針の内容は次のとおりです。

1. 基本方針

当社の取締役の報酬は、企業価値の持続的な向上を図るインセンティブとして十分に機能するよう株主利益と連動した報酬体系とし、個々の取締役の報酬決定に際しては各職責を踏まえた適正な水準とすることを基本方針とする。

具体的には、社外取締役および監査等委員である取締役を除く取締役の報酬額は、役位に基づく基本報酬、連結業績評価に基づく業績連動報酬、譲渡制限付株式付与による非金銭報酬で構成するものとし、社外取締役および監査等委員である取締役の報酬額は、役位に応じた基本報酬のみとする。

2. 基本報酬（金銭報酬）の個人別の報酬等の額の決定に関する方針（報酬等を与える時期または条件の決定に関する方針を含む。）

当社の取締役の基本報酬は、月例の固定報酬とし、役位に応じて他社水準、当社の業績、従業員給与の水準をも考慮しながら、総合的に勘案して決定するものとする。

3. 業績連動報酬ならびに非金銭報酬の内容および額または数の算定方法の決定に関する方針（報酬等を与える時期または条件の決定に関する方針を含む。）

業績連動報酬等は業績連動賞与とし、基本賞与と業績連動賞与で構成するものとする。基本賞与は役位に基づき、業績連動賞与は連結売上高および連結業績の評価に基づき決定し、現金報酬として、一定の時期に支給することとする。当社の業績連動賞与に係る指標は、当社グループの連結業績の向上を目的として「連結売上高前期比」および「連結経常利益前期比」を用いて算定するものとする。（社外、監査等委員である取締役を除く取締役の「業績連動賞与」支給額算定式）

「業績連動賞与」支給額＝

$(\text{「基準額」} \times \text{「連結売上高前期比」} \times 0.5) + (\text{「基準額」} \times \text{「連結経常利益前期比」} \times 0.5)$

（注1）基準額は月額報酬に基づき決定をする。

（注2）前期比の上限は200%、下限は0%とする。

（ご参考）当事業年度の実績は基準額の93%となりました。

$(\text{「基準額」} \times \text{「連結売上高前期比99\%」} \times 0.5) + (\text{「基準額」} \times \text{「連結経常利益前期比88\%」} \times 0.5)$

「連結売上高前期比」＝当期連結売上高7,703,313千円÷前期連結売上高7,766,838千円＝99%

「連結経常利益前期比」＝当期連結経常利益184,663千円÷前期連結経常利益208,591千円＝88%

非金銭報酬等は譲渡制限付株式報酬とし、社外取締役および監査等委員である取締役を除く取締役に、当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えることを目的として毎年、一定の時期に付与するものとする。

譲渡制限付株式報酬の対象期間（以下、「支給基準期間」という）は、定時株主総会の翌日から次期定時株主総会の日までとする。なお、譲渡制限付株式報酬の支給時期および譲渡制限付株式の割当日は、当該支給基準期間内で、取締役会の決議により決定するものとする。

〔譲渡制限付株式報酬の概要〕

| | |
|-------------|---|
| 対 象 者 | 社外取締役および監査等委員である取締役を除く取締役 |
| 株 式 報 酬 枠 | 年額200万円以内 |
| 上 限 株 数 | 年26千株以内 |
| 譲 渡 制 限 期 間 | 当社または当社の子会社の取締役（監査等委員であるものを含む）、取締役を兼務しない執行役員、監査役、使用人、顧問または相談役、その他これに準ずる地位のいずれからでも退任する日までの期間 |

4. 金銭報酬の額、業績連動報酬等の額または非金銭報酬等の額の取締役の個人別の報酬等の額に対する割合の決定に関する方針

業務執行取締役の種類別の報酬割合については、当社と同程度の事業規模や関連する業種・業態に属する企業をベンチマークとする報酬水準を踏まえ、上位の役位ほど業績連動報酬のウェイトが高まる構成とするものとする。

5. 取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する事項

個人別の報酬額については、取締役会決議に基づき代表取締役 社長執行役員 松尾昇光がその具体的内容について委任を受けるものとする。その権限の内容は、各取締役の基本報酬の額および各取締役の担当事業の業績を踏まえた賞与の評価配分とする。権限を委任した理由は、当社全体の業績等を勘案しつつ、かつ、取締役の担当部門について評価を行うには、代表取締役社長執行役員が適していると判断したためであります。なお、株式報酬は、社外取締役および監査等委員である取締役を除く取締役の役位による基本報酬に基づき決定するものとする。

ロ. 当事業年度に係る報酬等の総額等

| 区 分 | 報酬等の 総額 (千円) | 報酬等の種類別の総額 (千円) | | | 対象となる 役員の員数 (人) |
|-------------------------|--------------------|-------------------|----------|----------|-----------------------|
| | | 基本報酬 | 業績連動報酬等 | 非金銭報酬等 | |
| 取締役（監査等委員であるものを除く。） | 92,816 | 77,461 | 11,448 | 3,906 | 4 |
| 取締役（監査等委員） （うち社外取締役） | 20,700 (6,300) | 20,700 (6,300) | - (-) | - (-) | 4 (2) |
| 合 計 | 113,516 | 98,161 | 11,448 | 3,906 | 8 |

- (注) 1. 取締役（監査等委員であるものを除く。）の報酬限度額は、2018年6月20日開催の第79期定時株主総会におきまして、年額2億円以内（ただし、使用人分給とは含まない。）と決議いただいております。当該定時株主総会終結時点の取締役（監査等委員であるものを除く。）の員数は5名です。
2. 取締役・監査等委員の報酬限度額は、2018年6月20日開催の第79期定時株主総会におきまして、年額3千5百万円以内と決議いただいております。当該定時株主総会終結時点の取締役・監査等委員の員数は3名（うち社外取締役は2名）です。
3. 上記支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給とは含まれておりません。
4. 取締役（監査等委員であるものを除く。）の支給額には、譲渡制限付株式の付与による報酬額3,906千円を含んでおります。
5. 譲渡制限付株式の付与による報酬は、2018年6月20日開催の第79期定時株主総会におきまして、年額2千万円以内、株式数の上限を年26,000株以内と決議しております。当該定時株主総会終結時点の取締役（監査等委員であるものを除く。）の員数は5名です。
6. 取締役（監査等委員であるものを除く。）および取締役（監査等委員）の支給人員および支給額には、2021年6月23日開催の第82期定時株主総会終結の時をもって退任した2名を含んでおります。

(5) 社外役員に関する事項

- ① 取締役（監査等委員であるものを除く。）

該当事項はありません。

- ② 取締役・監査等委員 葛谷 昌浩

ア. 重要な兼職先と当社との関係

シンクレイヤ株式会社社の社外取締役・監査等委員であります。当社とシンクレイヤ株式会社との間には特別な関係はありません。

イ. 当事業年度における活動状況

当事業年度に開催された取締役会18回のうち16回に出席し、また監査等委員会14回の全てに出席し、主に公認会計士としての専門的見地から質疑を行い、適宜意見を表明し、当社業務執行に対する適切な監督およびコーポレート・ガバナンス体制の強化に貢献しております。

③ 取締役・監査等委員 井上 誠

ア. 重要な兼職先と当社との関係

該当事項はありません。

イ. 当事業年度における活動状況

当事業年度に開催された取締役会18回の全てに出席し、また監査等委員会14回の全てに出席し、主に弁護士としての専門的見地から質疑を行い、適宜意見を表明し、当社業務執行に対する適切な監督およびコーポレート・ガバナンス体制の強化に貢献しております。

5. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称

EY新日本有限責任監査法人

(2) 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

(3) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

① 公認会計士法第2条第1項の業務に係る報酬等の額

20,500千円

② 当社および当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額

20,500千円

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約におきまして、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておりませんので、上記の金額にはこれらの合計額を記載しております。

2. 監査等委員会は、会計監査人が提出した監査計画の妥当性及び適切性等を確認し、監査時間及び報酬単価といった算出根拠や算定内容を精査した結果、会計監査人の報酬等の額については同意を行っております。

(4) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

(5) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員の全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。また、監査等委員会は、会計監査人の職務遂行状況等を総合的に判断し、監査の適正性及び信頼性が確保できないと認めるときは、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

(6) 子会社の監査の状況

当社の在外子会社である南京華洋電気有限公司、Thai Toyo Electric Co.,Ltd.は、当社の会計監査人以外の監査を受けております。

6. 業務の適正を確保するための体制及びその運用状況

(1) 業務の適正を確保するための体制

当社が業務の適正を確保する体制構築のために、会社法および会社法施行規則に基づき、以下の基本方針を取締役会において決議し、体制整備に努めております。

- ① 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制
 - ア. 取締役の職務の執行に係る情報の取扱いは、当社社内規程およびそれに関する各マニュアルに従い、適切に保存および管理（廃棄を含む）の運用を実施し、必要に応じて運用状況の検証、各規程等の見直しを行う。
 - イ. 取締役の職務執行に係る情報は、各情報ごとに責任部署を定め、文書または電磁的媒体に記録し、保管する。
- ② 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - ア. 当社は、経営戦略、業務運営、コンプライアンス、環境、災害、品質、納期、情報セキュリティ、輸出入管理などに係るリスクについて、それぞれの責任部署を定め、規程・マニュアルの制定・配布などを実施し、グループ全体のリスクを網羅的・統括的に管理する体制を確保する。
 - イ. 個々のリスクに対し、責任部署や各委員会等（経営戦略会議、リスク管理委員会、安全衛生委員会、資材調達委員会、品質・環境委員会など）において検討し、リスク回避や低減に向けた改善を施す。
 - ウ. 内部監査室は、各委員会の会議に出席し、また部門の日常的なリスク管理状況の監査を実施する。
 - エ. 新たに生じたリスクは、すみやかに責任部署を定め、管理する体制を確保する。
- ③ 取締役の職務が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、以下の経営管理システムを用いて、取締役の職務の執行の効率化を図る。

 - ア. 当社は執行役員制度を導入し、業務執行に専念する執行役員を置くことにより、経営の意思決定および監督機能と業務執行機能の分離を促進するとともに、迅速かつ的確な業務執行を実現する。
 - イ. 取締役・社員が共有する全社的な目標を定め、この目標の浸透を図るとともに、目標達成に向けて、各部門が実施すべき具体的な目標を策定する。
 - ウ. 定例の取締役会を毎月1回開催し、重要事項の決定ならびに取締役の業務執行状況の監督等を行う。
また取締役会の機能をより強化し、経営効率を向上させるため、毎月1回の経営会議を開催し、業務執行に関する基本的事項や重要事項に係る意思決定を機動的に行うとともに、絞り込んだテーマについては、経営戦略会議を設け、詳細な議論と検討を行う。

- エ. 月次の業績は、ITを活用したシステムにより、その結果を迅速にデータ化することで、取締役会が定期的にその結果のレビューを実施し、効率化を阻害する要因を排除・低減するなどの改善を促すことにより、目標達成の確度を高め、全社的な業務の効率化を実現する。
- ④ 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合していることを確保するための体制
- 当社および当社グループは、当社および子会社の取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合するように、以下のコンプライアンス体制を構築する。
- ア. 当社および当社グループは、取締役および使用人の企業倫理意識の向上と法令遵守のために、コンプライアンス規程に従い、規程の配布や研修を実施することで周知徹底を図り、グループ全体への浸透を図る。
- イ. 内部監査室は、当社および当社グループのコンプライアンスの状況を定期的に監査し、取締役会および監査等委員会に報告する。
- ウ. 当社および当社グループにおけるコンプライアンスの観点から、これに反する行為等を早期に発見し、是正するために、内部通報ガイドラインの周知徹底を図る。
- ⑤ 監査等委員である取締役の職務を補助すべき取締役および使用人に関する体制
- ア. 現在、監査等委員である取締役の職務を補助すべき取締役および使用人はいないが、必要に応じて、監査等委員である取締役の職務を補助する使用人を置くこととする。
- イ. 前項の具体的な内容は、監査等委員である取締役の意見を聴取し、関係各方の意見も十分に考慮した上で、取締役と監査等委員である取締役が意見交換して決定する。
- ウ. 補助使用人は、監査等委員である取締役の指揮命令下で業務を行い、監査等委員である取締役以外からの指揮命令は受けない。
- エ. 補助使用人の任命・異動、人事評価および懲戒等については、監査等委員である取締役の意見を尊重する。
- ⑥ 取締役および使用人が監査等委員会に報告するための体制およびその他監査等委員の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ア. 当社ならびに子会社の取締役は、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実があることを発見したときには、法令に従い、直ちに監査等委員である取締役に報告する。
- イ. 取締役および使用人は、監査等委員会の定めるところに従い、監査等委員会の要請に応じて、必要な報告および情報提供を行うこととする。

- ウ. 常勤監査等委員である取締役は、重要な意思決定の過程および業務の執行状況を把握するため、取締役会以外に、経営会議や各委員会などの重要会議に出席するとともに、主要な稟議書やその他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて取締役および使用人にその説明を求めるとする。
 - エ. 監査等委員会は、当社の会計監査人から会計監査内容について説明を受けるとともに、情報の交換などを実施し、連携を図ることとする。
 - オ. 監査等委員会は、代表取締役と定期会合を持ち、相互の意見交換を実施する。
 - カ. 監査等委員会は、取締役又は使用人から得た情報について、第三者に対する報告義務を負わない。
 - キ. 監査等委員会は、報告をした使用人の異動、人事評価および懲戒等に関して、監査等委員でない取締役にその理由の開示を求めることができる。
- ⑦ 当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- ア. 関係会社管理規程に基づき、経営管理本部を管理担当部署として、関係会社に関する管理の適正化を図り、関係会社の指導・育成を促進し、企業集団としての経営効率の向上に努める。
 - イ. コンプライアンス規程に基づき、当社および子会社のコンプライアンス体制の構築を図る。
 - ウ. 当社および子会社の業務執行は、各社における社内規程に従って実施し、社内規程について随時見直しを行う。
 - エ. リスク管理規程に基づいて、リスク管理委員会を設置し、リスク管理体制を構築する。
 - オ. 当社内部監査室は、当社および子会社からなるグループ各社に対して監査を実施する。
- ⑧ 監査等委員である取締役の職務の執行について生ずる費用の前払いまたは償還の手続きその他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理にかかる方針に関する事項
- ア. 当社は、監査等委員である取締役がその職務の執行について生ずる費用の前払いまたは支出した費用等の償還、負担した債務の弁済を請求した時は、その費用等が監査等委員である取締役の職務の執行について生じたものでないことを証明できる場合を除き、これに応じる。

(2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

取締役の業務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
その他会社の業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は以下のとおり
であります。

① 取締役の業務執行

取締役会は、定例取締役会を毎月1回開催するほか、必要に応じ臨時取締役
会を開催し、経営上の意思決定機関として、取締役会規程に基づき重要事項を
決議、業務執行状況を監督しております。また、取締役会は18回開催されてお
ります。その他、経営会議は12回、経営戦略会議は12回開催されております。

② 損失の危険の管理

当社グループの主な損失の危険について、各委員会等（リスク管理委員会、
安全衛生委員会など）で検討しております。

③ 内部監査の実施

内部監査室は、当社および当社グループのコンプライアンス状況やリスク管
理状況等を定期的に監査し、代表取締役に報告しております。

④ 財務報告に係る内部統制

内部監査室は、内部統制に関する基本計画に基づき内部統制評価を実施して
おります。

(3) 株式会社の支配に関する基本方針

該当事項はありません。

(注) 本事業報告の記載金額および株式数は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連 結 貸 借 対 照 表

(2022年3月31日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部 | | 負 債 の 部 | |
|-----------------|------------------|--------------------|------------------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 流動資産 | 6,567,373 | 流動負債 | 2,767,007 |
| 現金及び預金 | 2,316,562 | 支払手形及び買掛金 | 737,641 |
| 受取手形、売掛金及び契約資産 | 2,492,591 | 電子記録債務 | 364,179 |
| 電子記録債権 | 644,373 | 短期借入金 | 965,782 |
| 商品及び製品 | 132,576 | 未払法人税等 | 16,668 |
| 仕掛品 | 475,922 | 未払消費税等 | 3,974 |
| 原材料及び貯蔵品 | 457,223 | 賞与引当金 | 123,445 |
| その他 | 48,474 | 製品補償引当金 | 51,999 |
| 貸倒引当金 | △351 | その他 | 503,315 |
| 固定資産 | 3,068,138 | 固定負債 | 993,264 |
| 有形固定資産 | 2,105,725 | 長期借入金 | 338,484 |
| 建物及び構築物 | 698,653 | 長期未払金 | 122,184 |
| 機械装置及び運搬具 | 131,679 | リース債務 | 21,121 |
| 土地 | 1,209,348 | 役員退職慰労引当金 | 25,937 |
| その他 | 66,043 | 退職給付に係る負債 | 421,692 |
| | | 資産除去債務 | 62,360 |
| | | その他 | 1,485 |
| 無形固定資産 | 270,709 | 負債合計 | 3,760,272 |
| リース資産 | 47,274 | 純資産の部 | |
| 土地使用権 | 189,507 | 株主資本 | 5,532,375 |
| その他 | 33,927 | 資本金 | 1,037,085 |
| | | 資本剰余金 | 873,733 |
| 投資その他の資産 | 691,703 | 利益剰余金 | 3,874,235 |
| 投資有価証券 | 316,033 | 自己株式 | △252,677 |
| 繰延税金資産 | 244,845 | その他の包括利益累計額 | 219,486 |
| その他 | 131,123 | その他有価証券評価差額金 | 60,495 |
| 貸倒引当金 | △300 | 為替換算調整勘定 | 158,990 |
| | | 非支配株主持分 | 123,377 |
| 資産合計 | 9,635,511 | 純資産合計 | 5,875,239 |
| | | 負債及び純資産合計 | 9,635,511 |

(注) 記載金額は、表示単位未満の端数を切捨てて表示しております。

連 結 損 益 計 算 書

(2021年4月1日から
2022年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 | 金 額 |
|------------------------------|--------|-----------|
| 売 上 高 | | 7,703,313 |
| 売 上 原 価 | | 5,592,889 |
| 売 上 総 利 益 | | 2,110,424 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 | | 2,008,477 |
| 営 業 利 益 | | 101,947 |
| 営 業 外 収 益 | | 124,787 |
| 受 取 利 息 | 1,197 | |
| 受 取 配 当 金 | 29,727 | |
| 受 取 賃 貸 料 | 43,571 | |
| 助 成 金 収 入 | 23,590 | |
| そ の 他 | 26,698 | |
| 営 業 外 費 用 | | 42,070 |
| 支 払 利 息 | 13,814 | |
| 不 動 産 賃 貸 原 価 | 17,384 | |
| 為 替 差 損 | 10,872 | |
| 経 常 利 益 | | 184,663 |
| 特 別 損 失 | | |
| 固 定 資 産 除 却 損 | 4,236 | 4,236 |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益 | | 180,426 |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 | 36,028 | |
| 法 人 税 等 調 整 額 | 63,422 | 99,451 |
| 当 期 純 利 益 | | 80,975 |
| 非 支 配 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 損 失 | | 1,908 |
| 親 会 社 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益 | | 82,884 |

(注) 記載金額は、表示単位未満の端数を切捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(2021年4月1日から
2022年3月31日まで)

(単位：千円)

| | 株 主 資 本 | | | | |
|--|-----------|---------|-----------|----------|-----------|
| | 資 本 金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自 己 株 式 | 株主資本合計 |
| 当 期 首 残 高 | 1,037,085 | 872,015 | 3,876,086 | △257,045 | 5,528,141 |
| 会計方針の変更による累積的影響額 | | | 278 | | 278 |
| 会計方針の変更を反映した当期首残高 | 1,037,085 | 872,015 | 3,876,364 | △257,045 | 5,528,420 |
| 連 結 会 計 年 度 中 の 変 動 額 | | | | | |
| 譲渡制限付株式報酬 | | 1,717 | | 4,486 | 6,204 |
| 剰 余 金 の 配 当 | | | △85,014 | | △85,014 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | | | 82,884 | | 82,884 |
| 自 己 株 式 の 取 得 | | | | △119 | △119 |
| 株主資本以外の項目の 連 結 会 計 年 度 中 の 変 動 額 (純 額) | | | | | |
| 連 結 会 計 年 度 中 の 変 動 額 合 計 | - | 1,717 | △2,129 | 4,367 | 3,955 |
| 当 期 末 残 高 | 1,037,085 | 873,733 | 3,874,235 | △252,677 | 5,532,375 |

(単位：千円)

| | その他の包括利益累計額 | | | 非 支 配 株 主 持 分 | 純資産合計 |
|--|------------------|----------|-------------------|------------------|-----------|
| | その他有価証券 評価差額金 | 為替換算調整勘定 | その他の包括利益 累計額合計 | | |
| 当 期 首 残 高 | 71,635 | 90,087 | 161,722 | 110,312 | 5,800,177 |
| 会計方針の変更による累積的影響額 | | | | | 278 |
| 会計方針の変更を反映した当期首残高 | 71,635 | 90,087 | 161,722 | 110,312 | 5,800,456 |
| 連 結 会 計 年 度 中 の 変 動 額 | | | | | |
| 譲渡制限付株式報酬 | | | | | 6,204 |
| 剰 余 金 の 配 当 | | | | | △85,014 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | | | | | 82,884 |
| 自 己 株 式 の 取 得 | | | | | △119 |
| 株主資本以外の項目の 連 結 会 計 年 度 中 の 変 動 額 (純 額) | △11,140 | 68,903 | 57,763 | 13,064 | 70,827 |
| 連 結 会 計 年 度 中 の 変 動 額 合 計 | △11,140 | 68,903 | 57,763 | 13,064 | 74,783 |
| 当 期 末 残 高 | 60,495 | 158,990 | 219,486 | 123,377 | 5,875,239 |

(注) 記載金額は、表示単位未満の端数を切捨てて表示しております。

連結注記表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)

1. 連結の範囲に関する事項
子会社は全て連結しております。
当該連結子会社は、東洋樹脂(株)、東洋電機ファシリティーサービス(株)、南京華洋電気有限公司、東洋板金製造(株)、Thai Toyo Electric Co.,Ltd.の5社であります。
2. 持分法の適用に関する事項
該当事項はありません。
3. 連結子会社の事業年度等に関する事項
南京華洋電気有限公司及びThai Toyo Electric Co.,Ltd.の決算日は12月31日であります。
連結計算書類の作成にあたり、2社については同日現在の計算書類を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引は連結上必要な調整を行っております。
4. 会計方針に関する事項
 - (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法
 - ① 有価証券
その他有価証券
市場価格のない株式等以外のもの
連結決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
市場価格のない株式等
総平均法による原価法
 - ② 棚卸資産
 - a 商品・製品・半製品・仕掛品・原材料
主として移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）
 - b 貯蔵品
最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）
 - (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法
 - ① 有形固定資産（リース資産を除く）
 - a 当社及び国内連結子会社
定率法によっております。但し、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。
なお、主な耐用年数は次の通りであります。
建 物 2～38年
機械装置 2～12年
また、2007年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。
 - b 在外連結子会社
定額法によっております。
 - ② 無形固定資産（リース資産を除く）
土地使用権
所在地国の会計基準の規定に基づく定額法によっております。
ソフトウェア
社内における利用可能期間（5～10年）に基づく定額法によっております。
 - ③ リース資産
所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっております。
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する方法によっております。
 - ④ 長期前払費用
定額法によっております。
なお、償却年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

③ 製品補償引当金

当社は、製品の品質に関する補償費用の支出に備えるため、今後必要と見込まれる金額を計上しております。

④ 役員退職慰労引当金

国内連結子会社は、役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) その他連結計算書類の作成のための重要な事項

① 連結計算書類の作成の基礎となった連結会社の計算書類の作成にあたって採用した重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産及び負債並びに収益及び費用は、在外子会社の決算日における直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

② 退職給付に係る負債

当社及び国内連結子会社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

③ 収益及び費用の計上基準

a 製品の販売

当社グループは、電気機械器具製品及び樹脂製品の製造、販売を提供しております。これらの製品の販売については、提供した製品の支配が顧客に移転した時点で、その対価として受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

b サービス及び役務の提供

当社グループは、販売した製品に対して別途の契約に基づくサービス及び役務を提供しています。サービス及び役務の提供には顧客からの要請に応じた都度の契約と一定期間にわたる契約があり、これらについて履行義務として識別しております。顧客からの要請に応じた都度の契約の場合は、サービス及び役務の提供が完了した時に履行義務が充足されるため、当該時点で、その対価として受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。一定期間のサービス及び役務の提供の場合は、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき一定の期間にわたり収益を認識することとしております。当該履行義務の充足に係る進捗度の測定は、当連結会計年度の期末日までに発生した原価が、予想される原価の合計に占める割合に基づいて行っております。なお、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることができない場合には、原価回収基準にて収益を認識しております。

(会計方針の変更)

(「収益認識に関する会計基準」及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。なお、当該変更が連結計算書類に与える影響は軽微であります。

また、従来の方と比べて、当連結会計年度の売上高が188,122千円増加しております。なお、営業利益、経常利益及び当期純利益に与える影響は軽微であります。

(「時価の算定に関する会計基準」及び「時価の算定に関する会計基準の適用指針」等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、期末連結計算書類に与える影響はありません。

(表示方法の変更に関する注記)

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、営業外費用の「その他」に含めて表示しておりました「為替差損」は、金額の重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しております。

なお、前連結会計年度の「為替差損」は、711千円であります。

(会計上の見積りに関する注記)

(固定資産の減損)

1. 当年度の連結計算書類に計上した金額 一千万円
2. 会計上の見積りの内容について連結計算書類利用者の理解に資するその他の情報

① 当年度の連結計算書類に計上した金額の算出方法

固定資産の回収可能価額の決定にあたって使用価値と正味売却価額のいずれか大きい額によっております。また、使用価値の見積りにあたっては、割引前将来キャッシュ・フローの総額によっております。割引前将来キャッシュ・フローの総額の見積りの算定方法については、取締役会により承認された中長期計画の数値を基に、経営環境等の外部要因(業界市場予測等)及び内部の情報(予算情報及び人事政策等)とを総合的に修正し、各資産又は資産グループの現在の使用状況や使用計画を考慮の上、算定しております。

また、中長期計画の見積り期間を超える期間の将来キャッシュ・フローは、従前の実績指標・計画達成推移に基づき、経営環境等の外部要因を踏まえた一定の成長率の仮定において見積りをしております。

将来キャッシュ・フローを見積る期間は、資産の経済的残存使用年数又は資産グループ内の主要な資産の経済的残存使用年数と20年のいずれか短い方としております。

② 当年度の連結計算書類に計上した金額の算出に用いた主要な仮定

割引前将来キャッシュ・フローの総額の見積りは、将来の中長期計画を基礎としており、その重要な仮定は売上高の成長率、原価率及び受注見込みであります。

売上高成長率 平均成長率 1.2% 見積りレンジ (△3.7%— 9.8%)

原価率 平均原価率 88.1% 見積りレンジ (86.8%—89.9%)

売上高につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響及び原材料供給不足を含むサプライチェーンの混乱による事業活動への影響が、最長で2023年後半まで継続し、その後の経営環境は一定水準まで回復するものと仮定しております。

原価率につきましては、原材料価格の高騰・海上輸送コンテナ不足等を背景に一定の原価率上昇を見込んでおります。

受注見込みにつきましては、過去及び現在の受注残高を基に算定しております。

③ 翌年度の連結計算書類に与える影響

現在、回収可能額が帳簿価額を上回っており、仮定が合理的な範囲で変化したとしても減損損失が発生する可能性は低いと考えております。しかしながら、主要な仮定の1つである売上高は、見積りの不確実性が高く、売上高が変動することに伴い、将来キャッシュ・フローが減少した場合は、最大で117,102千円の減損損失が発生する可能性があります。

(繰延税金資産)

1. 当年度の連結計算書類に計上した金額 244,845千円

2. 会計上の見積りの内容について連結計算書類利用者の理解に資するその他の情報

① 当年度の連結計算書類に計上した金額の算出方法

繰延税金資産の回収可能性の決定にあたっては、収益力に基づく一時差異等加減算前課税所得の十分性を、中長期計画を基礎として合理的な仮定に基づく業績予測によって検討しております。

また、タックス・プランニングに基づく一時差異等加減算前課税所得・将来加算一時差異を考慮の上、将来の税金負担額を軽減する効果を有するかどうかで判断しております。

② 当年度の連結計算書類に計上した金額の算出に用いた主要な仮定

収益力に基づく一時差異等加減算前課税所得の見積りは、将来の中長期計画を基礎としており、その重要な仮定は売上高の成長率、原価率及び受注見込みであります。

売上高成長率 平均成長率 5.5% 見積りレンジ (4.5%— 6.6%)

原価率 平均原価率 72.8% 見積りレンジ (71.5%—74.2%)

売上高につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響及び原材料供給不足を含むサプライチェーンの混乱による事業活動への影響が、最長で2023年後半まで継続し、その後の経営環境は一定水準まで回復するものと仮定しております。

原価率につきましては、原材料価格の高騰・海上輸送コンテナ不足等を背景に一定の原価率上昇を見込んでおります。

受注見込みにつきましては、過去及び現在の受注残高を基に算定しております。

③ 翌年度の連結計算書類に与える影響

主要な仮定の1つである売上高の不確実性により、課税所得の見積り額が変動するため、将来減算一時差異と税務上の繰越欠損金に係る繰延税金資産は、回収可能性を考慮した結果として、税金負担額を軽減する効果を有さなくなったと判断される場合があります。当該事象発生取崩額として38,090千円が発生する可能性があります。

(連結貸借対照表に関する注記)

1. (1) 担保に供している資産

| | |
|---------|-----------|
| 建物及び構築物 | 6,683千円 |
| 土地使用权 | 162,998千円 |
| 計 | 169,681千円 |

(2) 担保提供資産に対応する債務

| | |
|-------|----------|
| 長期未払金 | 29,868千円 |
| 計 | 29,868千円 |

2. 有形固定資産の減価償却累計額 4,588,804千円

3. 顧客との契約から生じた債権の残高及び契約資産の残高

| | |
|------|-------------|
| 受取手形 | 457,132千円 |
| 売掛金 | 1,877,695千円 |
| 契約資産 | 157,764千円 |

4. 流動資産「その他」のうち、契約負債の残高

| | |
|------|----------|
| 契約負債 | 69,658千円 |
|------|----------|

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首 | 増加 | 減少 | 当連結会計年度末 |
|--------------------|-----------|-----|-------|-----------|
| 発行済株式数 普通株式 (株) | 4,694,475 | — | — | 4,694,475 |
| 自己株式 普通株式 (株) | 447,682 | 146 | 7,814 | 440,014 |

(注1) 普通株式の自己株式の増加146株は、単元未満株式の買取によるものであります。

(注2) 普通株式の自己株式の減少7,814株は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分によるものであります。

2. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|----------------|----------------|
| 2021年6月23日 定時株主総会 | 普通株式 | 42,467 | 10 | 2021年 3月31日 | 2021年 6月24日 |
| 2021年11月5日 取締役会 | 普通株式 | 42,546 | 10 | 2021年 9月30日 | 2021年 12月2日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議予定 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|----------------|----------------|-------|
| 2022年6月23日 定時株主総会 | 普通株式 | 42,544 | 10 | 2022年 3月31日 | 2022年 6月24日 | 利益剰余金 |

※1株当たり配当額10円 普通配当10円

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に関する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針です。

(2) 金融商品の内容及びリスク並びにリスクの管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、当社グループの債権管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を1年間ごとに把握する体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、四半期ごとに把握された時価が取締役に報告されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務は、1年以内の支払期日です。

借入金、リース債務のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金(原則として5年以内、最長で7年)、リース債務(最長で7年)は主に設備投資に係る資金調達です。このうち長期借入金につきましては、固定金利による資金調達である為、金利変動リスクはありません。

営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されていますが、当社グループでは、各社が月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

2. 金融商品の時価に関する事項

2022年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、市場価格のない株式等は、次表には含まれておりません（注1）参照）。また、現金は注記を省略しており、預金、受取手形、売掛金、電子記録債権、支払手形及び買掛金、電子記録債務及び短期借入金は、短期間で決済されるものであるため時価が帳簿価格に近似することから、記載を省略しております。

（単位：千円）

| | 連結貸借対照表計上額 (*) | 時 価 (*) | 差 額 |
|------------|-------------------|------------|--------|
| (1) 投資有価証券 | | | |
| その他有価証券 | 233,494 | 233,494 | — |
| (2) 長期借入金 | (539,266) | (535,092) | △4,173 |
| (3) リース債務 | (66,050) | (65,450) | △599 |

(*) 負債に計上されているものについては、() で示しています。

(注1) 市場価格のない株式等

（単位：千円）

| 区 分 | 連結貸借対照表計上額 |
|-------|------------|
| 非上場株式 | 82,539 |

非上場株式については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

(注2) 金銭債権及び金融負債の連結決算日後の償還予定額

（単位：千円）

| | 1年以内 |
|--------|-----------|
| 受取手形 | 457,132 |
| 売掛金 | 1,877,695 |
| 電子記録債権 | 644,373 |
| 合 計 | 2,979,201 |

(注3) 長期借入金及びその他有利子負債の返済予定額

（単位：千円）

| | 1年以内 | 1年超 2年以内 | 2年超 3年以内 | 3年超 4年以内 | 4年超 5年以内 | 5年超 |
|-------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------|
| 短期借入金 | 765,000 | — | — | — | — | — |
| 長期借入金 | 200,782 | 154,524 | 73,080 | 49,680 | 49,680 | 11,520 |
| リース債務 | 44,929 | 14,545 | 4,310 | 2,265 | — | — |
| 合計 | 1,010,711 | 169,069 | 77,390 | 51,945 | 49,680 | 11,520 |

(注4) その他有価証券の貸借対照表計上額と取得原価
 有価証券はその他有価証券として保有しており、これに関する連結貸借対照表計上額と取得原価との差額は以下のとおりです。

(単位：千円)

| | 種 類 | 取得原価 | 連結貸借対照表計上額 | 差 額 |
|------------------------|-----|---------|------------|---------|
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | 株 式 | 98,458 | 195,604 | 97,145 |
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | 株 式 | 48,004 | 37,890 | △10,114 |
| 合計 | | 146,463 | 233,494 | 87,031 |

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産

| | 時価 (千円) | | | |
|---------|---------|------|------|---------|
| | レベル1 | レベル2 | レベル3 | 合計 |
| 投資有価証券 | | | | |
| その他有価証券 | 233,494 | — | — | 233,494 |

(2) 時価をもって連結貸借対照表価格としない金融負債

| | 時価 (千円) | | | |
|-------|---------|-----------|------|-----------|
| | レベル1 | レベル2 | レベル3 | 合計 |
| 長期借入金 | — | (535,092) | — | (535,092) |
| リース債務 | — | (65,450) | — | (65,450) |

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

長期借入金並びにリース債務

長期借入金（1年以内に返済期限が到来するもの200,782千円含む）並びにリース債務（1年以内に返済期限が到来するもの44,929千円含む）の時価については、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(収益認識に関する注記)

1. 顧客との契約から乗じる収益を分解した情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | 合計 |
|---------------|----------------|----------------|---------|-----------|
| | 国内制御装置 関連事業 | 海外制御装置 関連事業 | 樹脂関連事業 | |
| 売上高 | | | | |
| エンジニアリング部門 | | | | |
| 搬送制御装置 | 408,150 | — | — | 408,150 |
| 印刷制御装置 | 188,992 | — | — | 188,992 |
| 監視制御装置 | 628,825 | — | — | 628,825 |
| 配電盤 | 807,728 | — | — | 807,728 |
| 機器部門 | | | | |
| センサ | 1,280,335 | — | — | 1,280,335 |
| 空間光伝送装置 | 540,688 | — | — | 540,688 |
| 表示器 | 279,823 | — | — | 279,823 |
| 変圧器部門 | 2,196,316 | — | — | 2,196,316 |
| 中国制御装置 | — | 554,983 | — | 554,983 |
| タイ制御装置 | — | 98,776 | — | 98,776 |
| 樹脂製品 | — | — | 718,692 | 718,692 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 6,330,861 | 653,759 | 718,692 | 7,703,313 |
| その他の収益 | — | — | — | — |
| 外部顧客への売上高 | 6,330,861 | 653,759 | 718,692 | 7,703,313 |

2. 収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「4. 会計方針に関する事項（4）その他連結計算書類の作成のための重要な事項③収益及び費用の計上基準」に記載の通りであります。

3. 当期及び翌期以降の収益の金額を理解するための情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

当連結会計年度における当社及び連結子会社における顧客との契約から計上された受取手形、売掛金、契約資産及び契約負債の期首及び期末残高は、下記の通りであります。なお、連結貸借対照表上、契約負債は「その他」に含めております。

(単位：千円)

| | 2022/3/31 | |
|------|-----------|-----------|
| | 期首残高 | 期末残高 |
| 受取手形 | 410,023 | 457,132 |
| 売掛金 | 1,792,050 | 1,877,695 |
| 契約資産 | — | 157,764 |
| 契約負債 | 39,327 | 69,658 |

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当連結会計年度末時点における未履行の履行義務残高は以下の通りです。

(単位：千円)

| | 1年以内 | 1年超 | 合計 |
|---------|---------|-----|---------|
| 当連結会計年度 | 266,167 | — | 266,167 |

(1 株当たり情報に関する注記)

- | | | |
|---------------|--------|-----|
| 1. 1株当たり純資産額 | 1,351円 | 96銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 19円 | 49銭 |

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

《参考》

連結包括利益計算書

(2021年4月1日から
2022年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 |
|-------------------------|---------|
| 当 期 純 利 益 | 80,975 |
| そ の 他 の 包 括 利 益 : | |
| そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金 | △11,140 |
| 為 替 換 算 調 整 勘 定 | 83,876 |
| そ の 他 の 包 括 利 益 合 計 | 72,736 |
| 包 括 利 益 | 153,712 |
| (内 訳) | |
| 親 会 社 株 主 に 係 る 包 括 利 益 | 140,647 |
| 非 支 配 株 主 に 係 る 包 括 利 益 | 13,064 |

貸借対照表

(2022年3月31日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部 | | 負 債 の 部 | |
|-----------------|------------------|------------------|------------------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 流動資産 | 5,232,538 | 流動負債 | 2,499,409 |
| 現金及び預金 | 1,350,305 | 支払手形 | 322,364 |
| 現取手形 | 429,259 | 電子記録債権 | 364,179 |
| 電子記録債権 | 644,373 | 買掛金 | 286,911 |
| 売掛金 | 1,561,102 | 短期借入金 | 690,000 |
| 契約資産 | 157,764 | 1年以内返済予定長期借入金 | 172,642 |
| リース投資資産 | 2,676 | リース債務 | 44,929 |
| 商品及び製品 | 95,039 | 未払金 | 291,990 |
| 仕掛品 | 435,901 | 未払費用 | 80,587 |
| 原材料及び貯蔵品 | 363,975 | 未払法人税等 | 11,428 |
| 前払費用 | 13,662 | 契約負債 | 48,767 |
| 未収入金 | 178,814 | 預り金 | 14,761 |
| その他 | 14 | 賞与引当金 | 100,216 |
| 貸倒引当金 | △351 | 製品補償引当金 | 51,818 |
| 固定資産 | 3,067,969 | その他の | 18,812 |
| 有形固定資産 | 1,448,003 | 固定負債 | 767,191 |
| 建物 | 469,534 | 長期借入金 | 307,794 |
| 構築物 | 15,934 | 長期未払金 | 54,514 |
| 機械及び装置 | 10,903 | リース債務 | 21,121 |
| 車両運搬具 | 548 | 退職給付引当金 | 326,740 |
| 工具、器具及び備品 | 28,221 | 資産除去債務 | 55,664 |
| 土地 | 915,666 | その他 | 1,356 |
| リース資産 | 7,194 | | |
| 無形固定資産 | 75,697 | 負債合計 | 3,266,601 |
| 借地権 | 267 | 純資産の部 | |
| ソフトウェア | 23,415 | 株主資本 | 4,973,412 |
| リース資産 | 47,274 | 資本金 | 1,037,085 |
| 電話加入権 | 4,739 | 資本剰余金 | 873,733 |
| 投資その他の資産 | 1,544,268 | 資本準備金 | 857,265 |
| 投資有価証券 | 316,033 | その他資本剰余金 | 16,467 |
| 関係会社株式 | 610,933 | 利益剰余金 | 3,315,271 |
| 出資 | 13,096 | 利益準備金 | 259,271 |
| 関係会社出資金 | 276,121 | その他利益剰余金 | 3,056,000 |
| 長期前払費用 | 45,480 | 別途積立金 | 1,683,350 |
| 繰延税金資産 | 218,998 | 繰越利益剰余金 | 1,372,650 |
| 保険積立金 | 45,413 | 自己株式 | △252,677 |
| その他 | 18,491 | 評価・換算差額等 | 60,495 |
| 貸倒引当金 | △300 | その他有価証券評価差額金 | 60,495 |
| 資産合計 | 8,300,508 | 純資産合計 | 5,033,907 |
| | | 負債及び純資産合計 | 8,300,508 |

(注) 記載金額は、表示単位未満の端数を切捨てて表示しております。

損 益 計 算 書

(2021年 4 月 1 日から
2022年 3 月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 | |
|--------------|--------|-----------|
| 売上高 | | 5,886,744 |
| 売上原価 | | 4,336,695 |
| 売上総利益 | | 1,550,049 |
| 販売費及び一般管理費 | | 1,503,732 |
| 営業利益 | | 46,316 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 19 | |
| 受取配当金 | 94,814 | |
| 受取賃貸料 | 31,471 | |
| 事務受託料 | 40,136 | |
| 受取ロイヤリティ | 6,665 | |
| 助成金の収入 | 22,209 | |
| その他 | 16,364 | 211,679 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 12,402 | |
| 不動産賃貸原価 | 21,109 | 33,511 |
| 経常利益 | | 224,485 |
| 税引前当期純利益 | | 224,485 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 18,919 | |
| 法人税等調整額 | 56,904 | 75,823 |
| 当期純利益 | | 148,661 |

(注) 記載金額は、表示単位未満の端数を切捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(2021年4月1日から
2022年3月31日まで)

(単位：千円)

| | 株 主 資 本 | | | |
|-----------------------------|-----------|---------|----------|---------|
| | 資 本 金 | 資本剰余金 | | |
| | | 資本準備金 | その他資本剰余金 | 資本剰余金合計 |
| 当 期 首 残 高 | 1,037,085 | 857,265 | 14,749 | 872,015 |
| 会計方針の変更による累積的影響額 | | | | - |
| 会計方針の変更を反映した当期首残高 | 1,037,085 | 857,265 | 14,749 | 872,015 |
| 事業年度中の変動額 | | | | |
| 譲渡制限付株式報酬 | | | 1,717 | 1,717 |
| 剰 余 金 の 配 当 | | | | - |
| 当 期 純 利 益 | | | | - |
| 自 己 株 式 の 取 得 | | | | - |
| 株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額（純額） | | | | - |
| 事業年度中の変動額合計 | - | - | 1,717 | 1,717 |
| 当 期 末 残 高 | 1,037,085 | 857,265 | 16,467 | 873,733 |

(単位：千円)

| | 株 主 資 本 | | | | | | |
|-----------------------------|---------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|--------|
| | 利益剰余金 | | | | | 自己株式 | 株主資本合計 |
| | 利益準備金 | その他利益剰余金 | | 利益剰余金合計 | | | |
| | | 別途積立金 | 繰越利益剰余金 | | | | |
| 当 期 首 残 高 | 259,271 | 1,683,350 | 1,308,844 | 3,251,466 | △257,045 | 4,903,521 | |
| 会計方針の変更による累積的影響額 | | | 158 | 158 | | 158 | |
| 会計方針の変更を反映した当期首残高 | 259,271 | 1,683,350 | 1,309,002 | 3,251,624 | △257,045 | 4,903,679 | |
| 事業年度中の変動額 | | | | | | | |
| 譲渡制限付株式報酬 | | | | - | 4,486 | 6,204 | |
| 剰 余 金 の 配 当 | | | △85,014 | △85,014 | | △85,014 | |
| 当 期 純 利 益 | | | 148,661 | 148,661 | | 148,661 | |
| 自 己 株 式 の 取 得 | | | | - | △119 | △119 | |
| 株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額（純額） | | | | - | | - | |
| 事業年度中の変動額合計 | - | - | 63,647 | 63,647 | 4,367 | 69,732 | |
| 当 期 末 残 高 | 259,271 | 1,683,350 | 1,372,650 | 3,315,271 | △252,677 | 4,973,412 | |

(単位：千円)

| | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|-------------------------|--------------|------------|-----------|
| | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等合計 | |
| 当期首残高 | 71,635 | 71,635 | 4,975,157 |
| 会計方針の変更による累積的影響額 | | － | 158 |
| 会計方針の変更を反映した当期首残高 | 71,635 | 71,635 | 4,975,315 |
| 事業年度中の変動額 | | | |
| 譲渡制限付株式報酬 | | － | 6,204 |
| 剰余金の配当 | | － | △85,014 |
| 当期純利益 | | － | 148,661 |
| 自己株式の取得 | | － | △119 |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額) | △11,140 | △11,140 | △11,140 |
| 事業年度中の変動額合計 | △11,140 | △11,140 | 58,592 |
| 当期末残高 | 60,495 | 60,495 | 5,033,907 |

(注) 記載金額は、表示単位未満の端数を切捨てて表示しております。

個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

① 子会社株式

総平均法による原価法

② その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

総平均法による原価法

(2) 棚卸資産

① 製品・半製品・原材料・仕掛品

移動平均法による原価法

（収益性の低下による簿価切下げの方法）

② 貯蔵品

最終仕入原価法による原価法

（収益性の低下による簿価切下げの方法）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。但し、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次の通りであります。

建 物 2～38年

機械及び装置 4～11年

また、2007年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

ソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する方法によっております。

(4) 長期前払費用

定額法によっております。

なお、償却年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

(3) 製品補償引当金

当社は、製品の品質に関する補償費用の支出に備えるため、今後必要と見込まれる金額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

当社は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

4. 収益及び費用の計上基準

① 製品の販売

当社は、電気機械器具製品の製造、販売を提供しております。これらの製品の販売については、提供した製品の支配が顧客に移転した時点で、その対価として受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

② サービス及び役務の提供

当社は、販売した製品に対して別途の契約に基づくサービス及び役務を提供しています。サービス及び役務の提供には顧客からの要請に応じた都度の契約と一定期間にわたる契約があり、これらについて履行義務として識別しております。顧客からの要請に応じた都度の契約の場合は、サービス及び役務の提供が完了した時に履行義務が充足されるため、当該時点で、その対価として受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。一定期間のサービス及び役務の提供の場合は、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき一定の期間にわたり収益を認識することとしております。当該履行義務の充足に係る進捗度の測定は、当事業年度の期末日までに発生した原価が、予想される原価の合計に占める割合に基づいて行っております。なお、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることができない場合には、原価回収基準にて収益を認識しております。

5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(会計方針の変更)

〔収益認識に関する会計基準〕及び〔収益認識に関する会計基準の適用指針〕の適用

〔収益認識に関する会計基準〕(企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当事業年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。なお、当該変更が計算書類に与える影響は軽微であります。

また、従来の方と比べて、当事業年度の売上高が305,231千円減少しております。なお、営業利益、経常利益及び当期純利益に与える影響は軽微であります。

〔時価の算定に関する会計基準〕及び〔時価の算定に関する会計基準の適用指針〕の適用)

〔時価の算定に関する会計基準〕及び〔時価の算定に関する会計基準の適用指針〕等の適用については、連結計算書類「連結注記表（会計方針の変更）」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

(会計上の見積りに関する注記)

(繰延税金資産)

1. 当年度の計算書類に計上した金額 218,998千円

2. 会計上の見積りの内容について計算書類利用者の理解に資するその他の情報

①当年度の計算書類に計上した金額の算出方法

繰延税金資産の回収可能性の決定にあたっては、収益力に基づく一時差異等加減算前課税所得の充分性については、中長期計画を基礎としており、合理的な仮定に基づく業績予測によって検討しております。

また、タックス・プランニングに基づく一時差異等加減算前課税所得・将来加算一時差異を考慮の上、将来の税金負担額を軽減する効果を有するかどうかで判断しております。

②当年度の計算書類に計上した金額の算出に用いた主要な仮定

収益力に基づく一時差異等加減算前課税所得の見積りは、将来の中長期計画を基礎としており、その重要な仮定は売上高の成長率、原価率及び受注見込みであります。

売上高成長率 平均成長率 5.5% 見積りレンジ (4.5%— 6.6%)

原価率 平均原価率 72.8% 見積りレンジ (71.5%—74.2%)

売上高につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響及び原材料供給不足を含むサプライチェーンの混乱による事業活動への影響が、最長で2023年後半まで継続し、その後の経営環境は一定水準まで回復するものと仮定しております。

原価率につきましては、原材料価格の高騰・海上輸送コンテナ不足等を背景に一定の原価率上昇を見込んでおります。

受注見込みにつきましては、過去及び現在の受注残高を基に算定しております。

③翌年度の計算書類に与える影響

主要な仮定の1つである売上高の不確実性により、課税所得の見積り額が変動するため、将来減算一時差異と税務上の繰越欠損金に係る繰延税金資産は、回収可能性を考慮した結果として、税金負担額を軽減する効果を有さなくなったと判断される場合があります。当該事象発生の取崩額として38,090千円が発生する可能性があります。

(貸借対照表に関する注記)

| | |
|-----------------------|-------------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 | 2,772,414千円 |
| 2. 関係会社に対する金銭債権又は金銭債務 | |
| 短期金銭債権 | 127,009千円 |
| 長期金銭債権 | 6,743千円 |
| 短期金銭債務 | 185,925千円 |

(損益計算書に関する注記)

| | |
|-------------|-----------|
| 関係会社との取引高 | |
| 売上高 | 49,236千円 |
| 仕入高 | 835,351千円 |
| 原材料有償支給高 | 198,291千円 |
| その他営業取引の取引高 | 1,744千円 |
| 営業取引以外の取引高 | 132,088千円 |

(株主資本等変動計算書に関する注記)

自己株式の種類及び株式数

| 株式の種類 | 当事業年度期首 | 増加 | 減少 | 当事業年度末 |
|------------------|---------|-----|-------|---------|
| 自己株式 普通株式 (株) | 447,682 | 146 | 7,814 | 440,014 |

(注1) 普通株式の自己株式の増加146株は、単元未満株式の買取によるものであります。

(注2) 普通株式の自己株式の減少7,814株は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分によるものであります。

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

| | |
|-------------|-----------|
| 未払事業税否認 | 4,190千円 |
| 賞与引当金否認 | 30,556千円 |
| 退職給付引当金否認 | 99,623千円 |
| 未払役員退職慰労金否認 | 16,621千円 |
| 関係会社株式評価損否認 | 6,098千円 |
| 繰越欠損金 | 38,090千円 |
| 資産除去債務 | 17,346千円 |
| その他 | 81,218千円 |
| 繰延税金資産小計 | 293,745千円 |
| 評価性引当額 | △48,211千円 |
| 繰延税金資産合計 | 245,534千円 |

(繰延税金負債)

| | |
|--------------|-----------|
| その他有価証券評価差額金 | △26,535千円 |
| 繰延税金負債合計 | △26,535千円 |

繰延税金資産の純額

218,998千円

(関連当事者との取引に関する注記)

子会社

| 種類 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金 又は 出資金 (千円) | 事業の 内容 | 議決権 等の所有割合 (%) | 関連当 事者との 関係 | 取引の 内容 | 取引金額 (千円) | 科目 | 期末残高 (千円) |
|-----|--------------------|---------|--------------------------|----------------------|----------------------|-------------------|---------------|--------------|----------|--------------|
| 子会社 | 東洋電機ファシリティーサービス(株) | 愛知県春日井市 | 10,000 | 配電盤及び変圧器のサービス・メンテナンス | 100 直接 | 役員の兼任 | 売上代行 受取配当金 | - 50,000 | 未払金 - | 102,930 - |

(収益認識に関する注記)**収益を理解するための基礎となる情報**

収益を理解するための基礎となる情報は、「(重要な会計方針に係る事項に関する注記) 4. 収益及び費用の計上基準」に記載の通りであります。

(1株当たり情報に関する注記)

| | | |
|---------------|--------|-----|
| 1. 1株当たり純資産額 | 1,183円 | 21銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 34円 | 96銭 |

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄本

独立監査人の監査報告書

2022年5月18日

東洋電機株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

名古屋事務所

| | | |
|----------|-------|------|
| 指定有限責任社員 | 公認会計士 | 高橋浩彦 |
| 業務執行社員 | | |
| 指定有限責任社員 | 公認会計士 | 松岡和雄 |
| 業務執行社員 | | |

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、東洋電機株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東洋電機株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

会計監査人の監査報告書 謄本

独立監査人の監査報告書

2022年5月18日

東洋電機株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

名 古 屋 事 務 所

指定有限責任社員 公認会計士 高 橋 浩 彦
業 務 執 行 社 員
指定有限責任社員 公認会計士 松 岡 和 雄
業 務 執 行 社 員

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、東洋電機株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの第83期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
 - ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
 - ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
 - ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
 - ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- 監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査等委員会の監査報告書 謄本

監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2021年4月1日から2022年3月31日までの第83期事業年度における取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号口及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施いたしました。

①監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部統制部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。

②会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（2005年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。

② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

③ 内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2022年5月19日

東洋電機株式会社 監査等委員会

常勤監査等委員 加藤 茂 男 ㊟

監査等委員 葛谷 昌 浩 ㊟

監査等委員 井上 誠 ㊟

(注) 監査等委員葛谷昌浩及び井上誠は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以 上

株主総会参考書類

議案および参考事項

第1号議案 剰余金の処分の件

当社は、剰余金の処分につきまして、株主の皆様に対する安定的配当を実施することを基本方針とし、また財務体質の強化を図りながら将来の事業展開に備えるため、内部留保の充実にも努めております。

このような方針のもと当期の期末配当につきましては、次のとおりとさせていただきます。

- (1) 配当財産の種類
金銭といたします。
- (2) 株主に対する配当財産の割当に関する事項およびその総額
当社普通株式1株につき10円、総額42,544,610円
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日
2022年6月24日といたしたいと存じます。

第2号議案 定款一部変更の件

1. 変更の理由

①定款第15条

「会社法の一部を改正する法律」(令和元年法律第70号)附則第1条ただし書きに規定する改正規定が2022年9月1日に施行されますので、株主総会資料の電子提供制度導入に備えるため、次のとおり当社定款を変更するものであります。

- (1) 変更案第15条第1項は、株主総会参考書類等の内容である情報について、電子提供措置をとる旨を定めるものであります。
- (2) 変更案第15条第2項は、書面交付請求をした株主に交付する書面に記載する事項の範囲を限定するための規定を設けるものであります。
- (3) 株主総会参考書類等のインターネット開示とみなし提供の規定(現行定款第15条)は不要となるため、これを削除するものであります。
- (4) 上記の新設・削除に伴い、効力発生日等に関する附則を設けるものであります。

②定款第26条

定款に定めることにより、取締役会における書面決議が可能となるため、より機動的な意思決定をしていくことを目的として、変更案第26条第2項を新設するものであります。

2. 変更の内容

変更の内容は、次のとおりであります。

(下線部は変更部分を示しています。)

| 現行定款 | 変更案 |
|---|---|
| <p>第15条 (株主総会参考書類等のインターネット開示とみなし提供) <u>当社は、株主総会の招集に関し、株主総会参考書類、事業報告、計算書類および連結計算書類に記載または表示をすべき事項に係る情報を、法務省令に定めるところに従いインターネットを利用する方法で開示することにより、株主に対して提供したものとみなすことができる。</u></p> <p>(新設)</p> <p>第26条 (取締役会の決議の方法) 取締役会の決議は、取締役の過半数が出席し、出席した取締役の過半数をもって行う。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> | <p>(削除)</p> <p>第15条 (株主総会参考書類等の電子提供措置等) <u>当社は、株主総会の招集に際し、株主総会参考書類等の内容である情報について、電子提供措置をとるものとする。</u> <u>2. 当社は、電子提供措置をとる事項のうち法務省令で定めるものの全部または一部について、議決権の基準日までに書面交付請求した株主に対して交付する書面に記載しないことができる。</u></p> <p>第26条 (取締役会の決議の方法) 取締役会の決議は、取締役の過半数が出席し、出席した取締役の過半数をもって行う。</p> <p><u>2. 当社は、会社法第370条の要件を充たす場合は、取締役会の決議の目的である事項につき、取締役会の決議があったものとみなす。</u></p> <p>(附則) <u>1. 変更前定款第15条 (株主総会参考書類等のインターネット開示とみなし提供) の削除および変更後定款第15条 (株主総会参考書類等の電子提供措置等) の新設は、会社法の一部を改正する法律 (令和元年法律第70号) 附則第1条ただし書きに規定する改正規定の施行の日 (以下「施行日」という) から効力を生ずるものとする。</u> <u>2. 前項の規定にかかわらず、施行日から6か月以内の日を株主総会の日とする株主総会については、変更前定款第15条はなお効力を有する。</u> <u>3. 本附則は、施行日から6か月を経過した日または前項の株主総会の日から3か月を経過した日のいずれか遅い日後にこれを削除する。</u></p> |

第3号議案 取締役（監査等委員であるものを除く。）3名選任の件

取締役（監査等委員であるものを除く。）全員（3名）は、本総会の終結の時をもって任期満了となりますので、取締役（監査等委員であるものを除く。）3名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役（監査等委員であるものを除く。）の候補者は、次のとおりであります。

| 候補者番号 | 氏名 (生年月日) | 略歴、地位、担当および重要な兼職の状況 | 候補者の有する当社株式の数 |
|--|-----------------------------------|---|---------------|
| 1 | 松尾昇光 (1973年1月24日生) (再任) | 1998年4月 日東工業株式会社入社 2001年4月 当社入社 2009年12月 当社管理本部経理部長 2010年6月 当社取締役管理本部経理部長 2011年11月 当社取締役事業本部長付 2012年2月 当社常務取締役 2012年6月 当社代表取締役社長 2018年6月 当社代表取締役 社長執行役員 2020年6月 当社代表取締役 社長執行役員 経営管理本部担当・SDGs推進室長 2021年6月 当社代表取締役 社長執行役員 SDGs推進室長 (現在に至る) (重要な兼職の状況) 南京華洋電気有限公司 董事 | 138,334株 |
| <p>【取締役候補者とした理由】 松尾昇光氏は、代表取締役として経営ビジョンの策定、経営戦略の立案および遂行においてリーダーシップを発揮しております。取締役として求められる高い倫理観、的確な判断力と理解力に加え、当社の持続的な成長と企業価値の向上を促進するのに必要な経験および見識を有しているため、引き続き取締役候補者といたしました。</p> | | | |

| 候補者 番 号 | 氏 名 (生年月日) | 略歴、地位、担当および重要な兼職の状況 | 候補者の有する 当社株式の数 |
|---|------------------------------------|---|-------------------|
| 2 | 井 澤 宏 (1967年4月24日生) (再任) | 1990年4月 C K D株式会社入社 2007年11月 当社入社機器事業部製造部長 2017年1月 当社機器事業部副事業部長 2017年4月 当社機器事業部長 2017年6月 当社取締役機器事業部長 2018年6月 当社執行役員機器事業部長 2019年6月 当社執行役員 エンジニアリング事業部長 2020年4月 当社常務執行役員 エンジニアリング事業部長 兼デバイスソリューション事業部長 2020年6月 当社取締役常務執行役員 事業部担当 エンジニアリング事業部長 兼デバイスソリューション事業部長 2020年10月 当社取締役常務執行役員 事業部担当 2021年4月 当社取締役常務執行役員 事業部担当 変圧器事業部長 2022年4月 当社取締役常務執行役員 事業部・海外関係会社担当 (現在に至る) (重要な兼職の状況) 南京華洋電気有限公司 董事長 | 11,328株 |
| 【取締役候補者とした理由】 井澤宏氏は、当社入社以来、事業部長を歴任し、経営戦略を統括・実行してきました。当社取締役就任後はその豊富な知見を活かし当社経営に対して適切な発言・監督を行っています。当社の持続的な成長と企業価値の向上を促進するために必要な経験および見識を有しているため、引き続き取締役候補者といたしました。 | | | |

| 候補者番号 | 氏名 (生年月日) | 略歴、地位、担当および重要な兼職の状況 | 候補者の有する 当社株式の数 |
|---|---|---|-------------------|
| 3 | かが 美孝 加賀美孝 (1964年12月19日生) (再任) | 1988年4月 商工組合中央金庫（現株式会社商工組合中央金庫）入庫 2014年3月 同金庫名古屋審査室長 2016年7月 同金庫東大阪支店長 2018年8月 同金庫浜松支店長 2020年4月 当社出向取締役専務執行役員付 2020年6月 当社経営管理本部長 2020年10月 当社入社執行役員経営管理本部長 2021年4月 当社執行役員経営管理本部長 兼企画部長 2021年6月 当社取締役常務執行役員 経営管理本部長兼企画部長 2022年4月 当社取締役常務執行役員 本社管理部門・国内関係会社担当 (現在に至る) (重要な兼職の状況) 南京華洋電気有限公司 董事 | 2,165株 |
| 【取締役候補者とした理由】 加賀美孝氏は、前職での豊富な経験と幅広い見識を有しております。当社入社以来、その豊富な知見を活かし当社経営に対して適切な発言・監督を行っております。当社の持続的な成長と企業価値の向上を促進するために必要な経験および見識を有しているため、引き続き取締役候補者いたしました。 | | | |

- (注) 1. 各取締役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が会社の職務の執行に関して負担することとなる損害の損害賠償責任または当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずる損害を当該保険により填補することとしております。各候補者は、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。また、次回更新時には同内容での更新を予定しております。

【参考】取締役候補者の専門性と経験（スキルマトリックス）

取締役候補者の専門性と経験は次のとおりです。

| 候補者番号 | 氏名 | 専門性と経験 | | | | | | | | |
|-------|-------|--------|--------------|-------|-------|-------------|-------|-------|------------|------|
| | | 企業経営 | サステナビリティ・ESG | 財務・会計 | 人事・労務 | コンプライアンス・法務 | 研究・開発 | 生産・品質 | 営業・マーケティング | 海外営業 |
| 1 | 松尾 昇光 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| 2 | 井澤 宏 | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 加賀 美孝 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |

(注) 上記一覧表は、取締役の有するすべての知見・経験を表すものではありません。

第4号議案 補欠の監査等委員1名選任の件

現在の補欠の監査等委員選任の効力は、本総会開始の時までとなっておりますので、改めて、監査等委員が法令に定める員数を欠くことになる場合に備え、予め補欠の監査等委員1名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査等委員会の同意を得ております。

補欠の監査等委員の候補者は、次のとおりであります。

| 氏名 (生年月日) | 略歴、地位、担当および重要な兼職の状況 | 候補者の有する 当社株式の数 |
|--|---|-------------------|
| 原 武 之 (1977年3月26日生) | 2003年10月 森・濱田松本法律事務所入所 (第二東京弁護士会) 2006年9月 同所退所 2006年10月 川上法律事務所(現 オリンピア法律事務所) に移籍独立(愛知県弁護士会) 2017年2月 オリンピア法律事務所設立(愛知県弁護士会) 同事務所弁護士(現任) (現在に至る) | 一株 |
| <p>【補欠の社外取締役監査等委員候補者とした理由および期待される役割等】</p> <p>原武之氏は、過去に社外取締役になること以外の方法で会社の経営に関与した経験はありませんが、弁護士として企業法務に関する幅広い知識を有しており、その知識を持って当社の経営に対し、幅広い視点からの助言や、業務執行に対する適切な監督およびガバナンス体制の強化に期待したためであり、監査等委員としての職務を適切に遂行していただけると判断しております。</p> | | |

- (注) 1. 候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 候補者は、補欠の監査等委員候補者(社外取締役)であります。
3. 候補者は、当社と顧問弁護士契約を締結しておりますが、その報酬額は僅少であり、独立性を損なうものではありません。
4. 当社は、役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が会社の職務の執行に関して負担することとなる損害の損害賠償責任または当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずる損害を当該保険により填補することとしております。原武之氏が、監査等委員に就任した場合、同氏は当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。
5. 原武之氏は、名古屋証券取引所の定めに基づく独立役員要件を満たしており、同氏が監査等委員である社外取締役に就任した場合、当社は同氏を独立役員として同取引所に届け出る予定であります。

第5号議案 取締役に対する業績連動賞与の報酬枠改定の件

当社の取締役(社外、監査等委員を除く。以下本議案において「対象取締役」)に対する業績連動賞与の報酬枠については、2019年6月21日開催の第80期定時株主総会において、上限金額を年額16,700千円とする旨ご承認いただき今日に至っております。

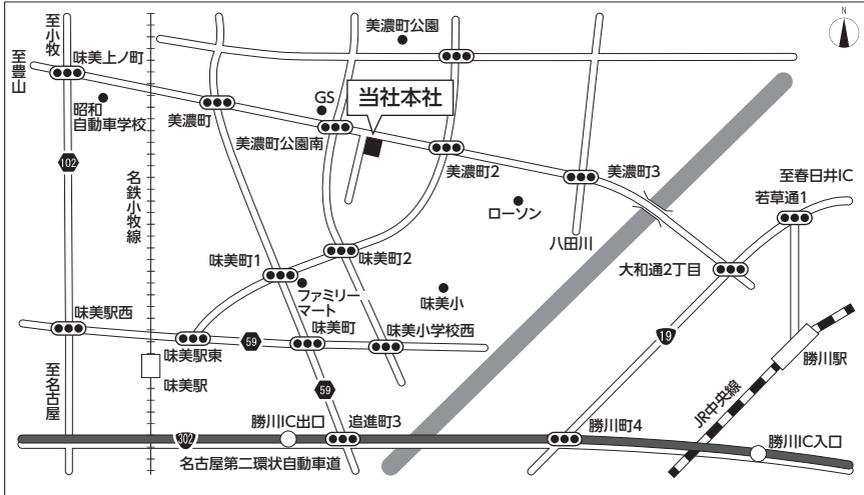
今般、当社は、取締役の業績達成意欲を高め、企業価値の持続的向上を図るインセンティブを与えることを目的として、これまで付与してきた基本賞与を廃止し、業績連動賞与のみとするものであります。対象取締役に対する業績連動賞与の上限金額を28,000千円に改定させていただきたいと存じます。

なお、業績連動賞与は、従来どおり、取締役の報酬総額の枠内で支給することといたします。現在の対象取締役は3名であります。

以上

株主総会会場ご案内図

会場 愛知県春日井市味美町二丁目156番地
当社本社2階会議室
電話 (0568) 31-4191 (代表)



交通のご案内

- ・当日は、勝川駅から当社春日井工場間の送迎バスの運行を取りやめとさせていただきます。株主の皆様にはご不便をおかけしますが、あらかじめご了承のほど、お願い申し上げます。
- ・春日井ICから国道19号を名古屋方面へ進み、「大和通2丁目」交差点を右折し約5分。勝川IC上り出口から国道302号「追進町3丁目」交差点を左折、県道59号を犬山方面へ進み、「美濃町」交差点を右折し約1分。
- ・JR中央線「勝川駅」から名古屋空港方面へタクシーで約10分
- ・JR中央線「勝川駅」から徒歩約30分
- ・名鉄小牧線「味美駅」から徒歩約10分

お車の方は当社構内の駐車場をご利用ください。

【新型コロナウイルス感染症に伴う当社の対応について】

- 株主総会開催日現在の国内の感染状況やご自身の体調をお確かめのうえ、マスク着用などの感染予防にご配慮いただき、ご来場賜りますようお願い申し上げます。
- また、本株主総会会場において、検温、アルコール消毒液の設置など感染拡大防止のための措置を講じてまいります。本株主総会にご出席される株主の皆様におかれましてはご協力のほど、お願い申し上げます。

